

コロナ禍における新しい生活様式

～罹患経験者つるの剛士さんと最前線の医師たちに聞く～

新型コロナウイルス感染の勢いが止まらぬなか、「コロナ禍における新しい生活様式」と題したメディカルセミナーが2020年12月2日、横浜市中区の神奈川県総合医療会館で行われた。藤沢市の観光親善大使で、昨夏に罹患した経験を持つタレントのつるの剛士さんを招き、実際に治療に携わった医療者らと意見を交わし、それぞれの立場で学びを深めた。(文中敬称略)

聞き手=渋谷文彦・神奈川新聞社長室特命部長 (収録時はコロナ対策をしています。)

新型コロナウイルスに罹患して

「呼吸器疾患専門の西川先生。あらためてコロナについて説明してください。」
西川 藤沢市民病院の職員一同が対応し、つるのさんが元気にお仕事に復帰できて何よりだと思います。ただ、当院は残念なことに神奈川モデルの高度医療機関として重症の患者さんも見させていたでいており、中にはお亡くなりになる方もいらっしゃいます。現状です。

一般的に症状としては通常、熱とかせきとか嗅覚・味覚の障害などの症状が出て軽症のまま推移される方が8割くらいと言われ、約2割の人から複数の人にうつるといふ事例が報告されています。この新型コロナウイルスが変異しているのは、ちょうど1週間程度で急速に悪化する方

がいます。また、一部は人工呼吸器を装着しないと命を保持できないほど重症化していくとも言われています。致命率も分母の取り方にもよりますが、約1〜2割と言われています。増加する患者に対応できなかった「医療崩壊」にも警戒心なればなりません。近隣の病院や当院を見ても、他の診療とのバランスが難しくなりつつあります。何とか終息へ向かってほしい病気の状況です。



つるの剛士さん
1975年5月26日生まれ 福岡県北九州市出身 藤沢市在住
二男三女の父親。2012年4月にふじさわ観光親善大使に就任。
多彩な才能の持ち主として歌手・俳優と幅広いジャンルで活動。

「つるのさんの罹患体験をお聞かせ下さい。」
つるの 8月中旬にドラマの収録現場で、感染者が1人出たという情報が事務所を通じて入りまし。家族との隔離や熱を毎日測る。という隔達を受けた翌日に熱が上がり

「つるのさん、医療従事者へメッセージをお願いします。」
つるの 僕は直接コロナにかかって、皆さんのご苦労をまじまじと感じていただきました。日々大変な中で働かれている医療従事者の方々に感謝しかありません。また、医療従事者のお子さんを育ててくださっている教育機関の先生方にも頭が下がります。

「つるのさん、医療従事者へメッセージをお願いします。」
つるの 僕は直接コロナにかかって、皆さんのご苦労をまじまじと感じていただきました。日々大変な中で働かれている医療従事者の方々に感謝しかありません。また、医療従事者のお子さんを育ててくださっている教育機関の先生方にも頭が下がります。



座談会参加者：(左から) 神奈川県医師会理事 池田信之、ふじさわ観光親善大使 つるの剛士、神奈川県医師会会長 菊岡正和、藤沢市民病院副院長 西川正憲、神奈川県医師会理事 笹生正人

主催：(公社)神奈川県医師会／(公財)かながわ健康財団／神奈川新聞社
後援：日本医師会／神奈川県医師会
協賛：神奈川県医師信用組合／(公財)神奈川県予防医学協会／(株)損害保険ジャパン

県の施策と体験者の声

「県内の医療体制について笹生先生お聞かせ下さい。」
笹生 県は重症中等症患者を診療する医療提供体制「神奈川モデル」を昨年3月に打ち出しました。7月頃に第二波が来て、感染者数が下がった。前々回の「第三波」を迎える

「県内でも入院医療体制は逼迫しており、11月14日に「医療アラート」を発令し、神奈川モデルの医療機関に病床数の拡大をお願いしました。」
一方、外来診療においてはかかりつけ医や一般医療機関が対応するのですが、現状ではかかりつけ医を持たない方がいます。そういった方々のために、県は集約的に発熱疾患の発熱等診療予約センターを開

「肺の深部で増殖することが多いとされ、鼻咽頭では反応しない場合もあります。20代くらいは疑陰性で、陽性とならないことがあることから、状況に応じて2、3回目の検査が必要なのかなと思います。」
つるの じゃあ僕は20代以内に入つたんですね。今は家庭内感染を注視しています。ママが感染したら小さい子は大変です。具体的に防ぐのは難しいですね。
笹生 マスクの効用はあります。飛沫感染で言えば、感染者がマスクをした場合は60〜80%、一般の方がマスクをすれば20〜40%減らせると言われて



菊岡会長あいさつ

「メディカルセミナー神奈川は、県民の皆さまを対象に健康について広く関心を持っていただき、健康で明るい生活を考えていくことを目的とした健康啓発セミナーで、県医師会とかながわ健康財団、



西川 正憲氏

新たな時代への意識

「ニューノーマルな生活様式についてお話しください。」
つるの 早くもワクチンが

「春頃には打てるようになるかもしれませんが、皆が接種したとしてもマスクが必要になる

「つるのさん、医療従事者へメッセージをお願いします。」
つるの 僕は直接コロナにかかって、皆さんのご苦労をまじまじと感じていただきました。日々大変な中で働かれている医療従事者の方々に感謝しかありません。また、医療従事者のお子さんを育ててくださっている教育機関の先生方にも頭が下がります。



菊岡 正和氏

池田理事 結びあいさつ

「今回のつるのさんには新型コロナウイルスの体験者というところから意見をいただき、ご自身の藤沢市民病院での入院の様子などをお話しいただいてイメージが湧きました。ご家族やお仕事のことなど、多方面に思いを巡らせた体験談をうかがい、自ら経験された方が発せられた言葉というのは、伝わるものが多いと感じました。」
多くの人が国内でも罹患している状況です。その方々も同じような思いを持って、入院中だったり、今後の仕事について悩んだりしている人など、さまざまな立場に新型コロナウイルスが影響を及ぼしている現状ではないでしょうか。
県医師会としては、ホームページなどからコロナに関する情報を発信することで、県民に事実と安心を伝えることにつながると考えております。今後も最新の情報を伝え、会長をトップとした連携・体制強化に力を注ぎ、コロナ禍に対応していく所存です。



池田 信之氏

「西川 誰でも感染するかもしれないし、誰かに感染させるかもしれない。治療で休まなければいけない仕事を周囲がどうサポートしてあげられるのか。その人を責める必要が全くない病気で、復帰した際には今まで通りに接していくということも、もっとみんな考えていく必要があると思います。」
産業衛生学会などの指針を見ると、そういった事を防ぐために心を砕いているようです。みんなが認識できるとより良くなるのかなという気がしますが、それがニューノーマルなのかもしれません。